



# SUPPORTERS

## サポーターズ No.153 2019 春号

一般社団法人 山梨県理学療法士会ホームページ

<http://ypta.jp/>

会員数 885名 施設数 134 (H31.2.18 現在)

「supporters (サポーターズ)」とは… 我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、『支える人』という意味の supporter に複数形のsを加え、supporters：支える人たち（造語）の意味です。



### 「やまなし地域リハ-ケアの推進を考える会」 研修会2018より



一般社団法人  
山梨県介護支援専門員協会会長  
鷲見 よしみ 先生

一般社団法人  
山梨県言語聴覚士会会長

内山 量史 先生



一般社団法人  
山梨県作業療法士会会長

山本 伸一 先生



PT、OT、ST 士会とケアマネ協会の4会合同の事業は、全国でも稀であり山梨県では平成28年度より定期的に研修会が開催されています。今年度は10月17日に症例検討を通してのグループワーク研修でした。

## CONTENTS

### Reportage1

- 「やまなし地域リハ-ケアを考える会」研修会2018……1
- 体験記 ホッケー女子日本代表「さくらジャパン」  
ニュージーランド3カ国大会帯同報告……2
- 各部活動報告 …… 3~8
  - 合同学術大会部 ●調査研究部
  - 委託事業部 ●新人教育研修部
  - 医療保険部・介護保険部 ●学術研修部 ●委託講習部
  - 地域連携部 ●士会学術集会部 ●スポーツ理学療法部

### Reportage2

- 山梨県理学療法士連盟 ……8
- 士会常設委員会活動報告 ……9~11
  - がんリハ推進委員会 ●訪問理学療法委員会
  - 災害対策支援委員会
  - オリ・パラ対策委員会 ●特別支援教育委員会
- 部員募集 ●スポーツ PT 部 ……11
- お知らせ ●事務管理局 ……13
- リレーエッセイ Part35 ……14~15
- 原稿募集 ……14
- 編集後記 ……15



## ホッケー女子日本代表 「さくらジャパン」 ニュージーランド 3カ国大会帯同報告

ニュージーランド、クロムウェルで開催された女子ホッケー3カ国大会において渉外・フィジオとして帯同しましたので報告いたします。

日本、ニュージーランド、オーストラリアの各国代表3チームで開催されました。「さくらジャパン」はアンソニー・ファリー監督以下スタッフ6名、選手はリオオリンピック代表を含む18名の選手団で構成され、帯同期間は平成30年5月15日から30日の16日間でした。国際大会の招致が初めての小さな町での開催となり、町ぐるみでこの大会を成功させようという熱気が現地スタッフから伝わってきました。



現地では、渉外としてブリーフィングの参加、ニュージーランドホッケー協会とのやり取り等、夜間には選手のコンディショニング等、フィジオとしての役割も持ちました。ホッケーは15分・4クォーター制で選手交代が何度でも可能な事から、フィールド選手は常にトップスピードで走り続けます。また攻守の切り替わりが早い競技特性からか、多くの選手が関節捻挫を繰り返しています。そして高強度のフィットネス能力が求められることから、下肢の疲労回復、疼痛緩和等のコンディショニングを求める選手が殆どでした。



大会中、発生した外傷は脇切傷および顔面打撲にて病院搬送、軽度の足関節捻挫と打撲でした。クロムウェルには救急病院がなく、車で30分程度離れた隣町まで搬送し、選手と救急隊員、医師の間の通訳、医療保険制度および今後の対応の確認等行いました。

国際大会の帯同ではスタッフの数が少ないため、それぞれがまず自分自身の役割を果たすことが重要で、臨機応変に対応する柔軟な態度が求められます。「理学療法士」の専門性を発揮した上で、チームの一員としてその専門性に特化し過ぎることなく「何でも屋」になれることが重要だと感じました。

# 各部活動報告

## 学術大会局 合同学術大会部発

今年度より、山梨県理学療法士会学術大会局に新たに「合同学術大会部」が新設されました。

この部では山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会、山梨県言語聴覚士の3士会による、山梨県リハビリテーション専門職団体協議会が主催する合同学術大会の企画・運営を致します。

3士会合同で行なう学術大会は全国では珍しく、山梨県はその先駆けとして2014年に第1回大会を開催しました。3年に1回開催される合同学術大会は2020年に3回目の開催を迎えます。今回は、我々が主体となって運営するため、今から準備を始めているところです。この大会に先立ち、数多くの演題が出てくることを期待し、併せて運営スタッフの協力依頼もして参りますので御協力をお願いします。

この年は、東京オリンピックが開催されると共に、山梨県理学療法士会にとっても50周年を迎える記念すべき年でもあります。この記念すべき年に開催される大会を、盛大に盛り上げていきましょう。

★ 問い合わせ先：学術大会局 合同学術大会部長 清水 一彦  
(山梨リハビリテーション病院内 TEL 0553-26-3030)



## 企画局 調査研究部発



調査研究部は、各部局からの依頼に応じアンケート調査と調査内容の分析を行っています。具体的には、研修会後のアンケート調査や、毎年開催される一般県民を対象とした公開講座でのアンケート調査などがありますが、その他にも県民・士会員を対象とした公益性のある調査も実施しています。昨年度は、県内で働く介護支援専門員に対し『介護保険サービスに関する意識調査』として介護支援専門員が持つセラピストに対するイメージやセラピストと上手く連携を取れているかなどのアンケート調査をしました。合計で300人を超える介護支援専門員から貴重な意見を得る事ができました。今年度中に皆様にフィードバック出来ると思いますので、特に地域で活動をされている方は介護支援専門員と連携を図る上で参考にして頂けたらと思います。今後も、皆様にとって有益となる調査を行ってまいりますので、調査して欲しいというものがあれば、是非意見を頂ければと思います。

★ 問い合わせ先：企画局 調査研究部長 塩原 真  
(恵信甲府病院 TEL 055-223-7333)

★ 問い合わせ先：企画局 調査研究部長 塩原 真  
(恵信甲府病院 TEL 055-223-7333)

## 社会局 委託事業部発

### □ ダイハツ工業株式会社との地域密着プロジェクト「健康安全運転講座」



本事業は、「いくつになっても自由に移動できる自立した生活」をサポートしていくという活動趣旨に賛同した、産（ダイハツグループ・JAF）、官（自治体）、学（日本理学療法士協会）、民（地域社会）が連携して取り組んでいる活動です。高齢者ドライバーへのネガティブなイメージが強い社会ですが、自動車は、高齢者が社会とのつながりを広げ、健康寿命を延伸させ、QOLを低下させないためのツールとも考えられます。



当士会でも今年度より、健康科学大学 下瀬良太先生を中心に準備を始め、6月19日、9月25日の2回、山梨ダイハツ販売 富士吉田店を会場に行いました。内容は士会員4名の協力で、①体力測定（握力、片脚立位時間、TUG、TMT-A）、②結果説明、③運動指導等を行いました。



参加者は、各22名、16名（平均年齢78.7歳）でした。地域包括ケアシステムの中で、健康づくりの役割を担い、地域活動への理学療法士の進出を促進・加速する契機となる事業だと感じました。

★ 問い合わせ先：社会局長 葦崎市立病院 古屋 伴仁（furuya.tomohito@nirasakihospital.jp）

## 福祉厚生局 医療保険部・介護保険部発



福祉厚生局長  
鈴木 聡先生



医療保険部長  
雨宮 直樹先生



介護保険部長  
遠藤 勇志先生

会員の皆様には、日頃より福祉厚生局の活動に関して、御理解・御協力を賜りまして、心から感謝申し上げます。10月26日に「医療・介護報酬に関する基礎的研修会」を、山梨県立青少年センターにて開催致しました。今回の研修会では、参加

総数51名、経験年数3年以内の先生方のみならず、中堅・ベテランの先生方にも足を運んでいただきました。医療・介護報酬の同時改定後という事もあり、皆様の意識が高まっている事が窺えました。アンケートを行った結果、「分かりやすい研修会で助かった。」などの感想をいただき、主催側としても大変嬉しく思いました。また、機能訓練加算や必要な書類や評価など、詳細な部分についても関心が寄せられており、皆様の熱意を感じる事ができました。「一人で学ぶのは大変なので、今後も基礎的な研修会を開いて欲しい。」との御要望を頂きましたので、今後も会員の皆様に情報提供ができるように努めて参ります。



### ★ 問い合わせ先：

福祉厚生局 医療保険部長 山梨県立中央病院 雨宮 直樹（amemiya-agve@ych.pref.yamanashi.jp）  
福祉厚生局 介護保険部長 山梨ライフケア・ホーム 遠藤 勇志（endo2000@violin.ocn.ne.jp）

## 生涯学習局 新人教育研修部発

9月20日、新人教育プログラムがありました。はじめに、山梨リハビリテーション病院の北山哲也先生より、接遇について新人同士でコミュニケーションを取るといった実演を交えながらご講演を頂きました。理学療法士として知識や技術を学んでいく事に加えて、社会人として接遇の大切さを再認識しました。患者の皆様やご家族、



生涯学習局長  
北山 哲也先生

スタッフと信頼関係を築く為にも、今回の講演を参考にしていきたいと感じました。その後、磯野賢先生には、協会組織と生涯学習システムについてご講演を頂きました。理学療法士の歴史や協会について再認識することで、今後の自主的な学習に生かしたいと思います。

今後、患者の皆様へ寄り添える理学療法士を目指すために、理学療法士同士はもちろんのこと、他職種の方々との連携を大切に、様々なことに挑戦しながら臨床現場で働いていきたいと感じました。



副会長  
磯野 賢先生

山梨リハビリテーション病院 内藤 眞琴

## 学術研修局 学術研修部発

### □ 第三回学術研修会 ～エビデンスに基づいた治療をしよう！～

10月14日に参加者が113名を超える中、神経系や小児分野、福祉工学などが専門の京都大学大学院講師の大畑光司先生に、「歩行障害に対する評価と治療」と題して講演をして頂きました。

歩行の問題点を生体力学的に捉えるお話と実技は、私には理解しやすいものでした。（詳しくは大畑先生の著書をご覧ください）

講演の中で「エビデンスに基づく治療の重要性」も語られました。脳卒中治療ガイドラインでは「より効果的な能力低下の回復を促すために、訓練量や頻度を増やす」ことがグレードAと示されています。恥ずかしながら、私も治療中に臥床時間の占める割合が多くなっていました。研修会を機にガイドラインを読み返し、エビデンスに基づいた治療の提供のために取り組みを始めました。

学術研修部では来年度も著名な先生をお招きし、年4回の研修会を開催予定です。多くの会員の方々のご参加をお待ちしていると共に、今後の学術研修部の活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



学術研修局 学術研修部 石和温泉病院 原田 智史

## 学術研修局 委託講習部発

10月19日(金)～21日(日)の三日にわたり日本理学療法士協会主催の理学療法士講習会「脳卒中片麻痺者の実践的アプローチ～立位・歩行に対するアプローチ～」を山梨リハビリテーション病院にて開催させていただきました。

前半は脳卒中片麻痺者の立ち上がり動作・歩行についての最新の知見・論文の紹介や治療デモンストレーションを行い、それをもとに臨床推論を展開していきました。後半は臨床推論の振り返りと実用的歩行に繋げるための立ち上がり・ステップング等の実技を行いました。講師の北山先生、伊藤先生、鮎川先生をはじめアシスタントの先生方、そして受講していただいた先生方に感謝いたします。

委託講習会部では来年度も二つの講習会を企画しております。多くの先生方にご参加いただけたらと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。



学術研修局 委託講習部長 稲持 裕太

\*なお稲持先生は1月より他県に移動されました。今までありがとうございました。後任は健康科学大学クリニックの清水大介先生です。よろしくお願ひします。

## 福祉厚生局 地域連携部発

第18回地域理学療法研修会を11月22日に開催しました。今回は、「共立介護福祉センターいけだ」リハビリテーション科科長の原啓太先生を講師にお招きし、「地域連携について考えよう～質の高い成果を求め～」をテーマに、ご講演いただきました。当日は80名にご参加いただきました。



地域連携とは?という基本的な定義、行政や理学療法士会から求められるものや加算からみた、連携に関わる現状を学びました。地域連携(他職種・医療機関との連携)を密に行い、生活レベルの改善が図れた症例報告では、連携の具体的なイメージがしやすく、わかりやすかったとのこと感想も多数いただきました。

後半にはグループワークで、情報共有や退院調整などでの困り事があるか?なぜ困り事は起きるのか?解決する為に何が出来るのか?を話し合い、有意義な時間となりました。

今回の研修会で、皆様方が今までより一歩進んだ連携を図るためのきっかけとなったと思います。

福祉厚生局 地域連携部 甲府共立診療所 石倉 茜



原 啓太先生

## 学術大会局 士会学術集会部発

### □ 第22回山梨県理学療法士会学術集会



杏林大学  
村松 憲先生

1月13日にアピオ甲府にて第22回山梨県理学療法士会学術集会を開催しました。特別講演に杏林大学の村松憲先生をお招きし、「糖尿病研究と脳研究の交差点に広がる新しいパラダイム」というテーマにてご講演をいただきました。村松先生が、研究テーマに取り組む熱意と私たちがこれからの臨床に活かすことが出来る内容をご教授いただきました。



教育講演ではスポーツ理学療法・訪問理学療法・リスクマネジメントと多岐にわたりご講演をいただきました。また、シンポジウムとして、「重複障害に対する理学療法」について、運動器・脳血管・心大血管・呼吸器



を各専門に診ている先生方から、各施設の特徴や症例を提示していただきました。一般演題は27演題の発表があり、普段の臨床の中で積み重ねてきた内容を発表していただきました。今回は、237名の方が参加し、明日からの臨床業務の活力になる学術大会となりました。

★ 問い合わせ先：学術大会局 士会学術集会部長 宮野 将貴  
(甲府城南病院 TEL 055-241-5833 直通)

## 社会局 スポーツ理学療法部発

### □ U-14,U-18 国際テニス大会の帯同報告

11月に開催されたジュニア国際テニス大会(北杜市須玉町)に帯同し、トレーナーサポートに参加しました。大会当日は選手の不調に対するコンディショニングやテーピング、コート内で起きた外傷の救急処置などを行いました。その場で的確に評価し、プレー続行の可否を検討したり、今大会を続行するための最良の処置を選択したりすることは、スポーツ現場ならではの大変貴重な経験でした。



私事ですが現在、2人の未就学児を子育て中であり、施設勤務外のトレーナー活動はしばらく難しいと思っていました。しかし、今大会のような単発のサポート等であれば現場経験を積み重ねていけるのではないかと希望を感じました。近く日本で開催される国際的スポーツイベントでは、女性理学療法士のニーズが高まっています。私自身もライフイベントと両立しながら現場でのサポート活動を続けていきたいです。この度は貴重な機会を与えて頂きありがとうございました。

横浜市スポーツ医科学センター 来住野 麻美

□ 一東海大学付属甲府高等学校女子バレーボール部  
春高バレー全国大会出場への挑戦



高校バレーボール最大の大会「全日本バレーボール高等学校選手権大会」の県予選決勝に我々の関わる東海大甲府高校が勝ち進みました。相手は高身長選手をそろえた第1シードの日本航空高校。夏のインターハイ予選で負けている相手です。リベンジを果たすべくウエイトトレーニングやプライオメトリックトレーニングなど、高さに負けないフィジカルを身につけるためハードトレーニングに励んできました。夏以降は腰や膝、肩の痛みを訴える選手が多く、その対応に苦勞しました。試合は緊迫したゲーム展開となり、身体的負担や大舞台での精神的緊張のためか腓腹筋が痙攣する選手が4名も出る状況で、ストレッチ、マッサージ、クーリング、栄養補給とフル稼働しました。結果は1-3で敗れてしまいました。選手は夏に比べて着実に成長した姿を見せてくれました。私たちが練習や試合中の対応などさらに成長する必要があります。

来年こそは夢の舞台へ！を合い言葉に選手とともに頑張っていきたいと思います。

JCHO山梨病院 理学療法室 小林 幸一郎

# 士会常設委員会活動報告

\*今年度より設置されたため、委員会紹介も兼ねています。

## がんリハ推進委員会

がんリハ推進委員会 委員長 山田 洋二  
甲府共立病院



静岡県立静岡がんセンター  
増田 芳之先生



↑第3回山梨県がん  
リハビリテーション研修会より

本委員会は、今年度より新たに設置された委員会です。今年度の活動は、山梨県理学療法士会単独ではなく、山梨県リハビリテーション専門職団体協議会として、山梨県から委託された、「がん患者に対するリハビリテーション実態調査」というアンケート調査を行いました。この事業が行われた背景として、平成30年3月に「山梨県がん対策推進計画（第3次）」が策定されたことにあります。その計画の中に、「がんの

リハビリテーション」に関する項目があり、具体的な目標は、①がんのリハビリテーションの実態把握、②がん患者のリハビリテーションに従事する医療従事者の人材育成を支援する、とされています。この計画に基づき、今年度、がんのリハビリテーションの実態把握をするべく、アンケート調査を実施致した次第です。アンケート結果については、何らかの形で会員の皆様にも共有していただけるようにと考えております。

来年度の活動では、がんリハの施設基準届出有無に関わらず、多くの士会員の方にご参加いただけるような研修会の開催を構想しています。

今後も、がん医療の質向上のために山梨県内にがんのリハビリテーションが普及することを目指して活動を行っていく所存です。

訪問理学療法委員会 委員長 柴田 佳介  
石和共立病院 在宅リハビリテーション室

## 訪問理学療法委員会

訪問理学療法委員会は、①3士会事業での訪問リハ委員会、②訪問リハ・地域リーダー会議への参加、③訪問リハビリテーション振興財団への協力、の3点が主な活動です。

PT・OT・ST3協会は訪問リハビリの普及および振興、震災復興特区における単独型訪問リハビリステーションの展開を目的とし「訪問リハビリテーション振興財団」(\*図1)設立し活動しており、本県も協会に準じた活動をしています。

毎年、訪問リハ・地域リーダー会議が行なわれ、報酬改訂や財団の取り組み報告、全国統一の研修会実施に関する情報提供をうけ、各士会で訪問リハビリ実務者研修会を実施しています。山梨県では「生活期リハビリテーション研修会」と名称変更し、生活期リハの質の向上や連携を深めるよう研修会を企画しています。

現在、3協会を中心に訪問リハビリに対する普及・振興の体制が整ってきています。復興特区での訪問リハビリステーションの成果を全国に広め、訪問リハビリがより身近なサービスとして定着するよう活動を続けていきます。



図1

Reportage

2

## 山梨県理学療法士連盟 講演会より

8月22日



日本理学療法士協会理事  
日本理学療法士連盟理事  
田中 まさし先生



8月22日に田中まさし先生、12月13日には半田一登先生が山梨市民会館にて、ご講演くださいました。田中先生は理学療法士に現状を理解し、未来に向け、今やるべきことをご提示いただきました。

12月13日



日本理学療法士協会・  
日本理学療法士連盟会長  
半田 一登先生



また半田先生は、「過去に学び」「今を考え」「未来をつくる」力説でした。どちらも身の引き締まるお話、ありがとうございました。

## 災害対策支援委員会

災害対策支援委員会 委員長 三井 伸一  
山梨県立中央病院



↑避難所での活動

「峡中・峡東エリア：山梨県立中央病院」「峡北・峡南エリア：富士川病院」「富士・東部エリア：山梨赤十字病院」に災害リーダーのPTを配置し、県内で災害が生じて距離・時間的に迅速な支援運営が取れるよう日々準備を重ね奮闘しています。今後、要請あれば全国各地への支援も視野に入れなければなりません。

この会が発展するには人材育成が大切です。各種研修会等も企画しますので多くの方にご参加いただき、災害について一緒に学んでいただければ幸いです。

山梨県 PT 士会の皆さま。当会に災害対策支援委員会がありますがご存知でしょうか。PT・OT・ST 士会で構成される「山梨県リハビリテーション専門職団体協議会」でも、災害対策支援委員会を設け、専門職の立ち位置で災害全般の支援運営に取り組んでいます。また全国組織の JRAT の傘下である、山梨 JRAT を設立し平成29年度には山梨県と災害協定を締結しました。

PT 士会はわずか4名の委員会ですが、上述の協議会等と連携し、広域的な組織づくりの観点から、

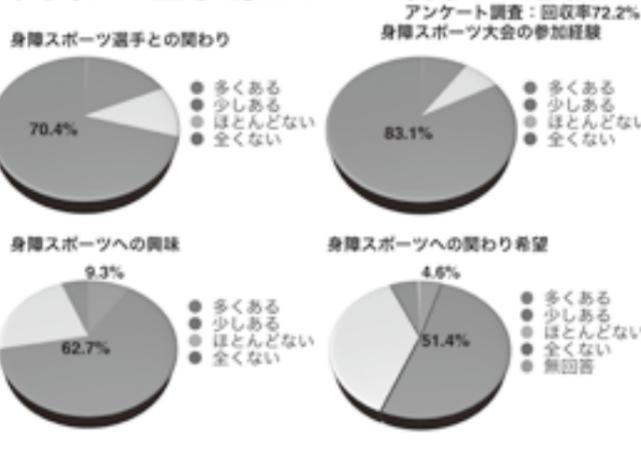


↑避難所での活動

## オリ・パラスポーツ委員会

オリ・パラスポーツ委員会 小尾 伸二  
山梨大学医学部附属病院

### 山梨の理学療法士の現状と意識



東京オリンピック・パラリンピックの PT 募集はすでに締め切れ、IOC は理学療法士協会から推薦された人員の選考作業に入っています。山梨から応募され IOC の最終選考に残った方が分かり次第、協会と連携してオリパラに向けた研修会を適宜計画し、また、所属施設への派遣協力依頼なども行いながら、山梨から派遣された PT がより良い仕事ができるように準備する予定です

また、障がい者スポーツに関するアンケート調査が HP に載せてありますのでご一覧下さい。山梨では障がい者スポーツに関わりたくともその機会がない現状が分かります。どのような関わり方で活動するかは検討中ですが、これを機に山梨でも障がい者スポーツに PT が参加する機会を増やしていきたいと思ひます。アンケートでご連絡を承諾された方々には近々改めてご相談の連絡をいたしますので、ご協力のほどをよろしくお願ひいたします。

## 特別支援教育委員会

「フリーランス PT」高村 裕子 特別支援教育委員会

私は、学校支援（保育・幼稚園、小・中・高等学校）として、県の事業を委託されている県内唯一のセラピストです。山梨県では、2013年から3年間「特別支援学校機能強化モデル事業」として、2016年からは「インクルーシブ教育推進事業」として PT・OT・ST 等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に取り組んでいます。

専門家として学校内での関わり方について、実践を交えながらお伝えできることは、教員・生徒・保護者にとって有用性があると感じています。またセラピストとして解釈した学校での情報は、医療リハにおいても質の向上につながると実感しています。さらに生徒たちが就労した現場や生活介護の現場で、学校での教育を活かし、どのような関わりが継続的にできるか専門家の意見が所望されています。

その時々「困り感」に柔軟に寄り添い、立ち向かえる仲間を探しております。セラピストとして地域のニーズに応えるような働き方改革を一緒に考えていきませんか？



地域療育支援事業から依頼の派遣施設

山梨県立甲府支援学校、健康科学大学クリニック、石和共立病院、小さな図書館はばたき、他

部員募集

## スポーツ理学療法部員募集中

東京オリンピックパラリンピックを契機に日本ではスポーツ理学療法を必要とする分野が拡大しています。山梨では以前より大会やチームでの活動を行い、他県の PT に向けテニス等の国際大会の経験を提供するなど、スポーツ現場での経験が豊富に出来る県になっています。折角ですのでスポーツ理学療法に少しでも興味のある方は一緒に山梨のスポーツ現場で理学療法士として活動してみませんか？選手や仲間との出会い、試合の緊張感、勝利の喜び、など日常診療では味わえない経験も出来ると思ひます。



スポーツ部員として活動いただける方は sobi@yamanashi.ac.jp または 055-273-9805 山梨大学医学部附属病院リハビリテーション部 小尾伸二 までご連絡下さい。また、スポーツ理学療法部内研修は原則として毎月第1・第3火曜日 19:00 から山梨大学医学部附属病院リハビリテーション部機能訓練室で行っていますので、自由に参加いただいてから部員として登録いただいても構いません。皆さんの積極的なご参加をお待ちしています。

★ 問い合わせ先：社会局 スポーツ理学療法部 小尾 伸二  
山梨大学医学部附属病院リハビリテーション部 TEL 055-273-9805 E-Mail sobi@yamanashi.ac.jp

第22回  
山梨県理学療法士会  
学術集会  
Photo



## お知らせ Information



### 事務局からのお知らせ

#### ◆ 重要なお知らせ

会費の納入期限について、2018年度から「会費納入期限」が前納制に変わりました。2019年度分の会費の納入期限は2019年（平成31年）3月中になります。楽天カード、口座振替の会員については、3月中に引き落としになります。引落登録のない会員については、2019年3月上旬から、振込用紙が順次発送されます。注意：振込用紙を利用されている会員につきましては、用紙到着から納入までの期間が短くなっています。

**3月末までに納入のなかった場合は、4月から会員権利の全面停止、6月末までに納入のなかった会員につきましては、会員資格喪失により退会、となります。**

\*退会となった場合、これまで獲得した生涯学習ポイント等はすべて失効となります。再度在会を希望した場合は「新入会」となり新人教育プログラムからの再履修が必要です。

**「4月以降の異動が決定した場合（特に県外へ）」は、可能な限り早めの申請をお願いします。「休会、復会、退会」を希望される会員は、2019年1月1日～3月31日に手続きをして下さい。**

会員情報の変更手続き（異動、休会、退会、会費納入方法等）については、協会HPの「マイページ」から手続きを行ってください。マイページにアクセスするには、協会が各個人に発行したIDとパスワードが必要です。「IDやパスワードがわからない」、「そもそもインターネット環境が無い」という会員の方は、お手数ですが日本理学療法士協会まで問い合わせをお願いします。（公社）日本理学療法士協会 TEL：03-5414-7911

\*会員情報につきましては、（公社）日本理学療法士協会の会員管理システムにて一括管理されているため、県士会単位では対応ができません。

#### ◆（公社）日本理学療法士協会の年会費割引制度の案内

日本理学療法士協会には年会費の「育児休業割引」、「シニア割引」、「海外会員割引」があります。詳細は日本理学療法士協会HP「年会費」をご覧ください。

#### ◆事務局への問い合わせについて

山梨県士会HPの「事務局への問い合わせ」メールフォームからお願いいたします。インターネット環境がない会員の方は、山梨県立あけぼの医療福祉センター 療法科内 担当 有泉 TEL：0551-22-6112（療法科直通）までお願いします。

#### ◆山梨県士会HPについて

一部の内容が古いままなど、ご迷惑をおかけしていますが、随時更新作業を進めています。トップページの「お知らせ」や「研修会情報」については、常に最新の情報を載せていますので、ぜひアクセスしてみてください。



途絶えることのないバトンを君に /

# リレーエッセイ

『リレーエッセイ』とは…

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい(ただし、誹謗や中傷の内容は除外します)ので400字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

以前のSupportersにあった「会員のひろば」との違いは、会員同士の輪を広げるということで、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

リレーエッセイ

## Part 35-1

甲州リハビリテーション病院 丸茂 高明

帝京医療福祉専門学校2期生の繋がりで石和温泉病院の清水真治先生からバトンを受け取りました甲州リハビリテーション病院の丸茂高明です。



最近自身の活動として、地域事業への参加が増えて来ています。

今年度「笛吹市フレイルサブトレーナー」となりました。最近講演等でも多く取り上げられています。「フレイル」という意味をご存知ですか? フレイルとは年をとって心身の活力(筋力、認知機能、社会とのつながりなど)が低下した状態をいいます。状態としては健康な状態と要介護状態の中間の状態をいいます。

笛吹市住民の「フレイルサポーター」と医療職の「フレイルトレーナー・フレイルサブトレーナー」で笛吹市フレイル予防事業に取り組んでおります。皆さん熱く活動に取り組んでおられ、自身としても日々勉強し同事業に協力しております。

次のバトンも同期繋がりで葦崎市立病院 神谷 文香先生お願いいたします。

## 原稿を募集しています!

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えております。テーマ等は自由です。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など
2. 各種お知らせ事項など
3. 体験記など
4. その他

● 問い合わせ先: 広報局 会報部 宇月正明  
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院  
TEL: 0553-26-4126 FAX: 0553-26-4366  
E-mail: kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp



内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

※ 第154号発行は、2019年9月を予定しています。

原稿の締め切りは

**7月中旬です。**

リレーエッセイ

## Part 35-2

赤坂台病院 堀内 聖也

皆さんこんにちは。帝京科学大学の平賀篤先生からバトンを頂きました、赤坂台病院の堀内聖也と申します。現職場に変わり、早いもので一年経過しようとしています。

最近、改めて感じる事があります。自分自身がいかに関心があったか…反省の日々です。PT免許をとり入職当初は、誰よりも優れたい・負けたくないという気持ち一心で、周りの事を気に掛けることがうまくできなかつたと感じます。自分のためにも大切な事ですが、置かれている環境に感謝しながら、利他的に振る舞い、社会貢献できるようにしていきたいなと強く感じています。

当院では、昨年4月より訪問リハビリテーション事業所が稼働しました。経験のある先輩方の背中をみながら、足をひっぱらないよう日々奮闘中です。

これからも人としてPTとして成長できるよう、一生懸命頑張ります。

今回は、塩川病院の中部大也先生にバトンをお渡します。よろしくお願ひ致します。



## 編集後記



9月の台風21号被害及び北海道胆振東部地震による被害で、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げます。また被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて今年度は日本人が世界で活躍した年でした。10月1日に本庄佑先生のノーベル医学・生理学賞。11月12日には大谷翔平選手のメジャーリーグ新人賞。年が明けて1月26日、大坂なおみ選手、全豪オープン優勝。心躍りました。

また長く活躍された方々の引退もありました。サッカーGK、川口能活選手。卓球、福原愛選手。横綱、稀勢の里。ごく個人的に感慨深かったのは、歌手、安室奈美恵さんの引退でした。同い年なので…

皆さんにとって「平成30年度」はどんな年度だったでしょうか? また何が心に残りましたか? 「平成」もあと少しで幕を閉じますが、次年度も皆さんのご活躍を祈念しております。また会報誌発行の際も引き続きご協力お願いいたします。

宇月 正明

- 【発行】 一般社団法人 山梨県理学療法士会
- 【代表】 小林 伸一
- 【企画・校正】 宇月 正明 古澤 淳一 進藤 圭一郎 立澤 俊貴 一瀬 智之
- 【編集・印刷】 株式会社 たけまる
- 【会報部】 〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436  
医療法人 景雲会 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院  
TEL: 0553-26-4126 FAX: 0553-26-4366  
E-mail: kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp

